

第19次審議会における審議内容の総括



いわき市水道局



目次

- 1 第19次水道事業経営審議会に対する諮問
- 2 いわき水みらいビジョン2031の取組状況
 - ・事業評価
 - ・経営効率化の取組
 - ・収支見通し
- 3 水道料金体系のあり方

第19次水道事業経営審議会に対する諮問





【諮問事項】

- ・ **いわき水みらいビジョン2031の取組状況について**
- ・ **水道料金体系のあり方について**
- ・ **その他経営に関する諸課題等について**



R6.1.23

(背景)

- ・ 高度経済成長期に整備した施設の老朽化が進み、更新需要の増加が見込まれ、自然災害を見据えた対策が必要であることなどから、水道システムの強靱化が急務
- ・ 予定する事業を実施した場合、令和9年度には資金不足が生じることが避けられない見込み
- ・ 水道施設の統廃合や適正化などの経営効率化の取組を着実に実施する必要
- ・ 水需要の減少に伴い水道料金収入も減少している現状においては、料金原価の9割程度を占める固定的な経費を基本料金で安定的に回収できないため、水需要の増減に影響されにくい料金体系を構築する必要

いわき水みらいビジョン2031：令和4年1月策定



第19次水道事業経営審議会の開催状況



第19次経営審議会【水みらいビジョンの取組状況・水道料金体系のあり方について】

開催回数	開催月日	審議内容	具体的な項目
第1回	R6.1.23	諮問・審議会及び水道事業の概要	事業の沿革・現状等
第2回	R6.3.14	水道施設視察	老朽管更新工事現場(小名浜地区)等
第3回	R6.8.29	R5事業評価・経営効率化の取組・決算	事業評価等の説明
第4回	R6.11.21	外部講師の講演	「水道事業の現在位置と将来」
第5回	R7.1.23	水道料金のしくみ・水道料金体系のあり方	体系の説明や料金算定の手法等
第6回	R7.3.21	水道料金体系のあり方②	基本料金と水量料金の見直し等
第7回	R7.6.26	水道料金体系のあり方③	算定要領・財政シミュレーション・まとめ
第8回	R7.8.28	R6事業評価・経営効率化の取組・決算 第19次審議内容の総括	事業評価等の説明 審議内容の確認
第9回	R7.11.27 (予定)	答申案の審議・決定	答申書の確認
答申	R7.12.23 (予定)	市長への答申	-

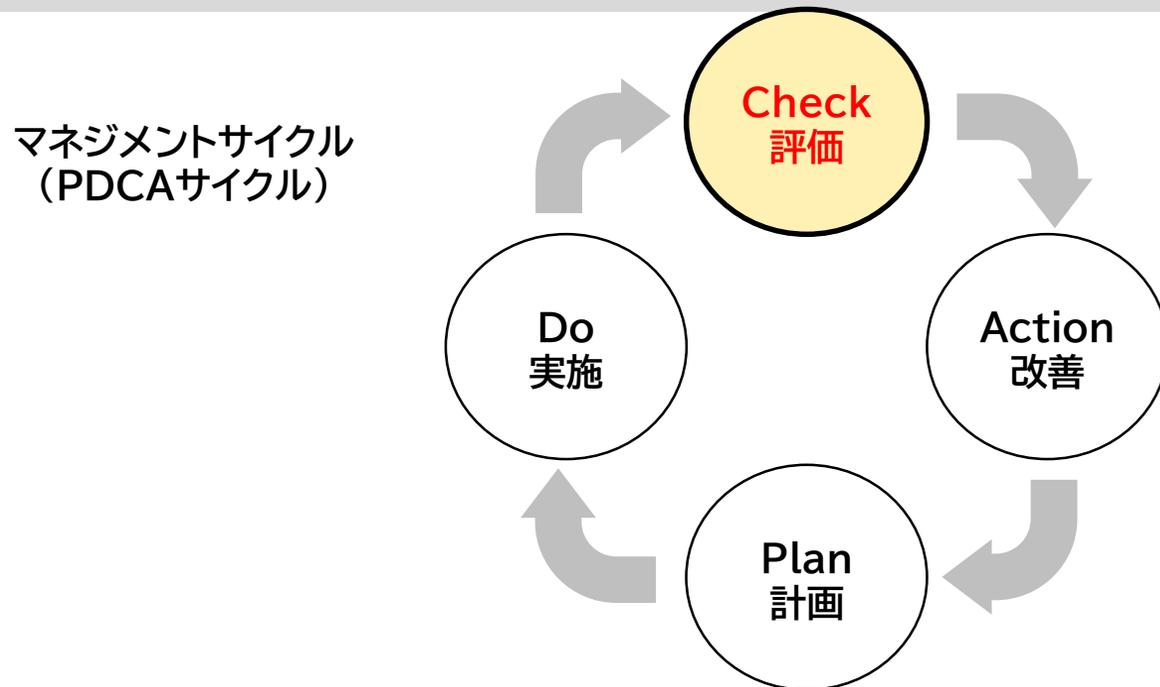
いわき水みらいビジョン2031の取組状況



・事業評価

「いわき水みらいビジョン2031」では、事業をより効果的かつ効率的に実施し、将来像の実現を推進するために、**PDCAサイクル**(「計画(Plan)－ 実施(Do)－ 評価(Check)－ 改善(Action)」のマネジメントサイクル)により、事業の進捗管理と事業効果の点検評価を行い、改善策等を翌年度以降の計画や予算に反映させることで、継続的な改善・見直しを図ることとしています。

また、水みらいビジョンで示した将来像の実現に向けて、9つの事業を「主要事業」と位置付け、その事業の達成状況をわかりやすくお知らせするため、重要業務指標(KPI)を目標として設置している。



KPIのポイント

14指標のうち9指標は、R6目標値を達成し、主要事業はほぼ順調に進捗しています。

凡例



※管路の更新率「単年指標」
その他「累積指標」



※浄水場が停止した場合
の給水の安定性を示す



※給水の安定性向上に向け
た取組状況を表す



※浄水処理機能の信頼性・
安全性を表す



※ポンプ処理施設の信頼性・
安全性を表す



※配水池の信頼性・安全性を
表す



※基幹管路の安全性・信頼
性を表す



※津波・浸水対策を完了した
施設の割合を示す



※土砂災害対策を完了した施設の割合を示す



※停電対策を完了した施設の割合を示す



※更新された水道施設の割合を示す
⇒調整池更新工事等が繰越 (R7竣工にて目標達成)



※重要給水施設配水管路の安全性・信頼性を表す
⇒配水管整備工事が繰越 (R7竣工にて目標達成)



※耐震診断を実施した施設の割合を示す
⇒入札不調等による実施年度の変更



※水道管路網の安全性・信頼性を表す
⇒管路の更新率の向上により、改善見込み



※管路の100年サイクルを目指し、1%/年を目指す
⇒目標未達は繰越であるため、年度内竣工を目指す



いわき水みらいビジョン2031の取組状況



・経営効率化の取組



【4つの経営効率化の取組】

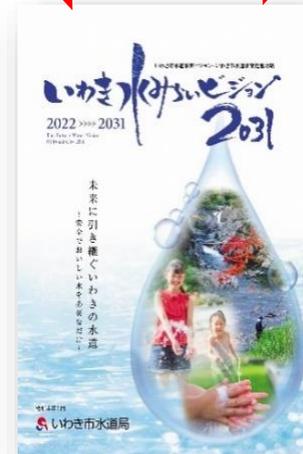
いわき水みらいビジョンへの
取り込み

①水道施設の適正化・効率化の取組 (3事業)

②水道施設の更新需要等経費節減の取組 (3事業)

③財源確保及び業務改善の取組 (8事業)

④効率的な組織体制構築の取組 (2事業)



【いわき水みらいビジョン2031】



経営効率化の取組の効果額



4つの位置づけ	主な取組内容	R4効果額	R5効果額	R6効果額	累計額
①水道施設の適正化・効率化の取組	水道施設のダウンサイジングや漏水防止対策事業の新取組	12億8,200万円	15億6,500万円	6億2,300万円	34億7,000万円
②水道施設の更新需要等経費節減の取組	水道施設の長寿命化計画の推進	-	-	2,900万円	2,900万円
③財源確保及び業務改善の取組	新たな財源確保の推進など	6,800万円	9,400万円	3億1,900万円	4億8,100万円
④効率的な組織体制構築の取組	職員教育の充実と求められる技術力の確保	15万円	63万円	89万円	170万円
合計		13億5,000万円	16億5,900万円	9億7,200万円	39億8,100万円

※議事13「経営効率化の取組(P13)」の再掲分(水道施設のダウンサイジングの取組)は除いて表示しています。
 ※四捨五入により、累計額が一致しない場合があります。

ポイント

水みらいビジョン計画期間内(R4~R6)での効果額は約39億8,100万円となっています。今後においても、水みらいビジョンに位置づけた経営効率化の取組みを着実に実施していくことが重要であり、さらなる収入増加、経費節減に向けた取組を検討、実施していきます。

いわき水みらいビジョン2031の取組状況



・収支見通し



財政収支見通し



※議事14「いわき市水道事業決算の概要(令和6年度)(P17、P18)」を前期5年・後期5年でのまとめたもの



単位:億円

区分		R4~R8	R9~R13	合計
収入	財政計画(A)	451.2	434.4	885.6
	決算(見込)額(B)	440.7	418.1	858.8
	差(B-A)	△10.5	△16.3	△26.8
支出	財政計画(A)	426.4	433.6	860.0
	決算(見込)額(B)	422.7	457.5	880.2
	差(B-A)	△3.7	23.9	20.2
純利益	財政計画(A)	24.8	0.8	25.6
	決算(見込)額(B)	18.0	△39.4	△21.4
	差(B-A)	△6.8	△40.2	△47.0



単位:億円

区分		R4~R8	R9~R13	合計
収入	財政計画(A)	150.9	129.7	280.6
	決算(見込)額(B)	182.5	152.8	335.3
	差(B-A)	31.6	23.1	54.7
支出	財政計画(A)	420.9	377.5	798.4
	決算(見込)額(B)	431.5	383.0	814.5
	差(B-A)	10.6	5.5	16.1
収支不足額	財政計画(A)	270.0	247.8	517.8
	決算(見込)額(B)	249.0	230.2	479.2
	差(B-A)	△21.0	△17.6	△38.6



補填財源/資金残高

単位:億円

区分		R8末	R13末
補填財源	財政計画(A)	54.8	16.4
	決算(見込)額(B)	86.4	19.9
	差(B-A)	31.6	3.5
資金残額	財政計画(A)	0.6	△34.5
	決算(見込)額(B)	33.6	△25.5
	差(B-A)	33.0	9.0

第8回確認

【収益的収支】

- ・期間全体では純利益が47.0億円減の見込み。
- ・収益的収支が赤字(欠損金)となる時期は、R11からR8に前倒しの見込み。

【資本的収支】

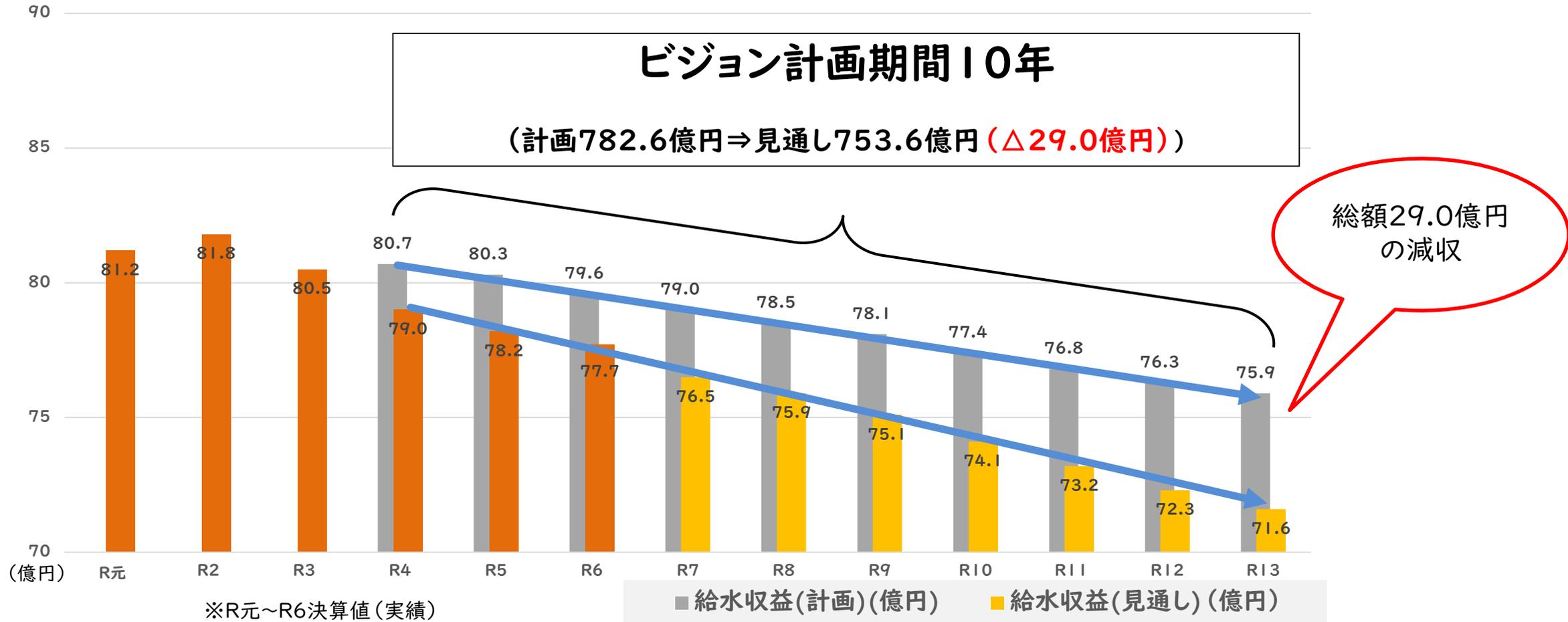
- ・建設改良工事の繰越等により、期間全体で支出が16.1億円増となる。
- ・国庫補助金等の活用等により、期間全体で収入が54.7億円増となる。
(⇒資本的収支不足額は期間全体で38.6億円改善となる見込み)

【資金残額】

- ・資金不足が生じる時期は、R9からR12となる見込み。
- ・計画期間中に資金不足が生じることに変わりはなく、依然として厳しい財政状況である。

水道料金体系のあり方



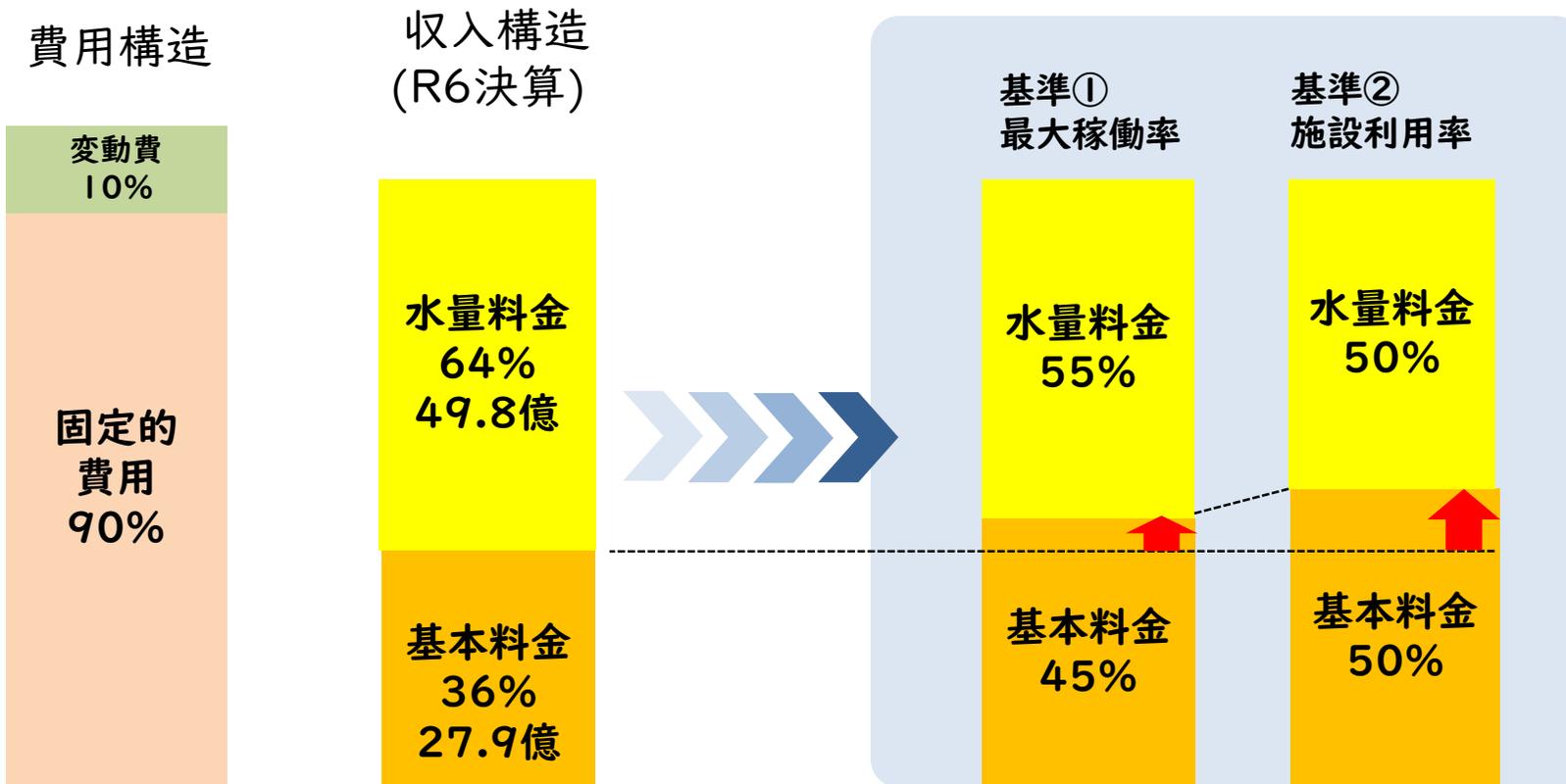


ポイント

近年、人口減少等に伴う水需要の減少が続いており、水道料金収入が減少している。現在の料金収入の見通しでは、水みらいビジョンの計画よりも10年間で29.0億円(△3.7%)減少している。



基本料金と水量料金の割合の見直し (R6決算値反映)



ポイント

現行の体系では、水需要の減少は水道料金収入の減少に直結している。割合の見直しにより、料金収入の減少幅を抑えることができる。

第5回確認

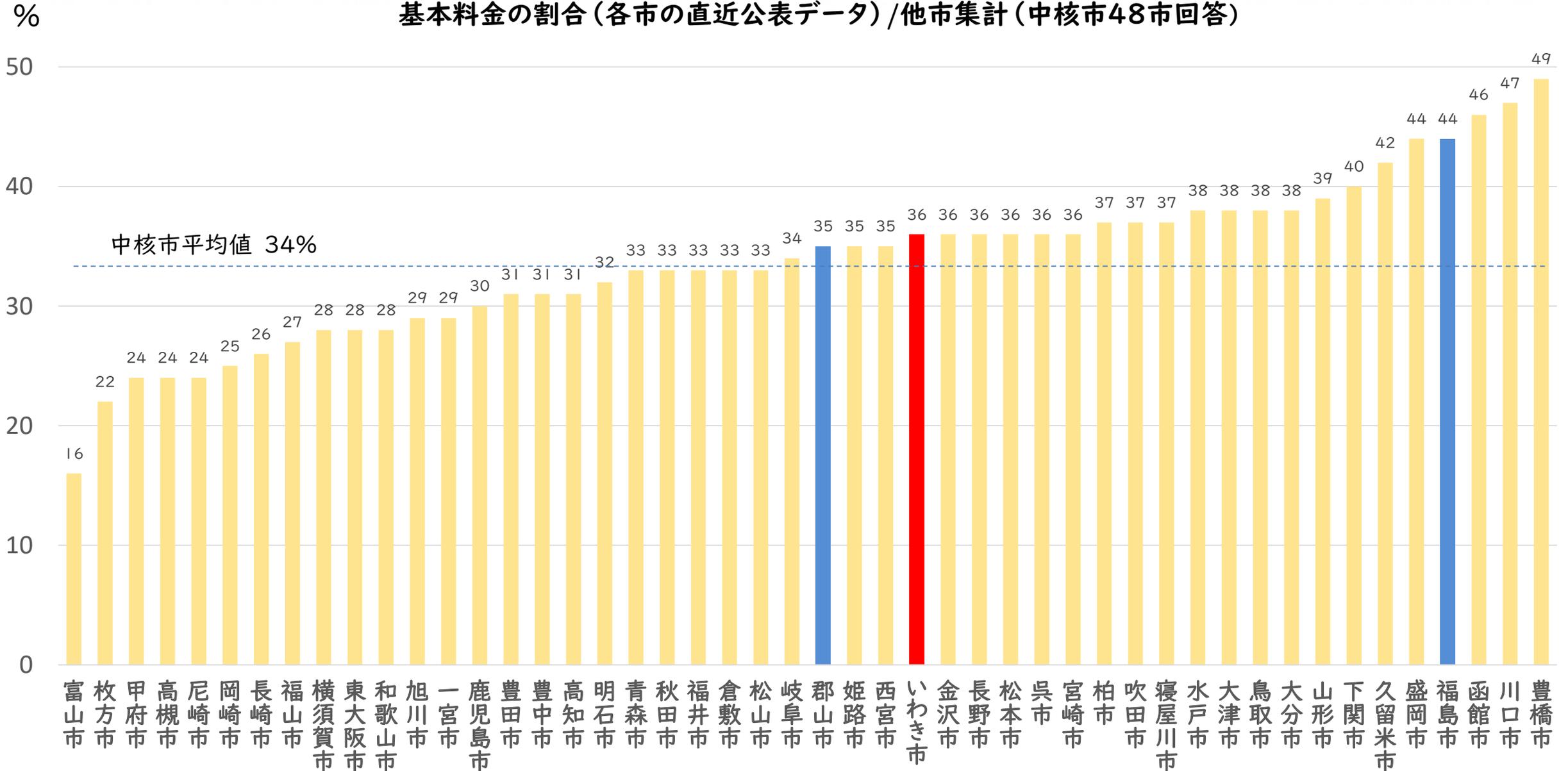
固定的な費用の回収のためには、基本料金の割合の高い体系であることが望ましい。
 なお、どのような割合とするかについては、第20次経営審議会にて審議していくものとする。



基本料金と水量料金の割合の見直し【参考】



基本料金の割合 (各市の直近公表データ) / 他市集計 (中核市48市回答)





水量料金の見直し



ポイント

1か月の平均使用水量は減少し、より安い単価の段階での水供給となっている。

1か月あたりの平均使用水量は、水量区画を増やしたH7改正時（H6決算）と比較し
口径13mm:20m³から13m³に減少（▲35%減少）
口径20mm:35m³から21m³に減少（▲40%減少）
（背景）節水機器の浸透や1世帯あたりの人数の減少（H6:3.08人⇒R5:2.27人）
が考えられる。

段階別水量料金単価（税込）

（参考）県内主要都市比較 単位:円

段階	段階別の区分	いわき市	福島市	郡山市	会津若松市
第1段階	1m ³ ~10m ³	82.5	92.4	102.3	基本水量に含む
第2段階	11m ³ ~20m ³	171.6	141.9		215.6
第3段階	21m ³ ~50m ³	213.4	211.2		
第4段階	51m ³ ~100m ³	238.7	271.7		
第5段階	101m ³ 以上	260.7			
逡増度 ※第5段階÷第1段階		3.16	2.94	2.22	1.00

第5回確認

最低単価の引き上げ等による逡増度の緩和は、収入の安定的な確保となるが、生活用水の使用者の負担増となることから、慎重な検討が必要となる。



○基本料金と水量料金の割合の見直しについて

現行の水道料金の割合の体系では、水需要の減少が水道料金収入の減少に直結している。

一方、基本料金の割合が高いと、水需要の減少に収入が影響されない体系となり、企業経営を安定的に行いやすくなるが、少量利用者の負担が重くなるといったデメリットがある。

このため、今後の料金体系については、生活用水使用者に配慮しつつ、段階的に基本料金で費用を回収するような体系に変更していくことが必要である。

○水量料金について

水量料金については、第1段階から第3段階までを生活用水として低単価に設定し、第4段階及び第5段階を高単価に設定することにより、水を多く使う者がより負担している仕組みである。

また、大口使用者の節水の浸透等により、第4段階以上の使用水量が大幅に減少しているため、水需要の減少以上の速さで水道料金収入が減少し、費用を回収することができなくなるおそれがあるなど、安定経営に資する料金体系とは言い難い状況となっている。

このため、水量料金については、生活用水使用者に配慮しつつも、単価を見直していくことが必要である。